

現状・課題・目的

地域の間伐等の森林整備は、路網整備が不十分なことや、小規模な林分が多いこと、間伐しても出材量が少ないことなどの理由で、森林整備が困難な林分が多数ある現状であり、今後の取り扱いが課題となっている。

このため、作業地の集約化などによる低コストな森林づくりを目的に、各種の取組を進めてきている。

平成31年度から森林経営管理法の適切な運用が新たな課題となった。

森林管理の適正化と、森林整備の効率化の一体的な推進により、課題の解決を図ることを目的に取り組みを進めて行く。

令和元年度取組内容

1. 「経営管理権集積計画」策定の支援

森林経営管理法に基づく、整備すべき人工林のうち、林業経営の適否の考え方に関する勉強会を胆振総合振興局、森林室と連携を図り開催する。

また、経営管理権集積計画策定に当たっての林況調査については、ドローンを活用した効率的な調査手法を検討。



ドローンからの撮影風景

写真

2. 「経営管理実施権」の設定が困難な森林の取扱い

整備すべき人工林のうち、林業経営に適さない森林については必要な森林整備を低コストで効率的に実施するための手法を検討。

①利用間伐等の検討

- ・列状間伐や、木質バイオマス利用による収益の確保など

②公益的機能重視の人工林の取扱手法の検討

- ・針広混交林化など林況に合わせた森林へ誘導
- ・裸地化した森林や間伐遅れ林分などの保育
(地掻などによる天然更新の促進、低密度植栽による更新補助など)



検討対象人工林の例

これまでの取組内容と成果

民国連携システム販売の実施

むかわ町、道有林及び国有林の三者におけるシステム販買において、ロットの拡大及び施業の集約化等のメリットにより、道有林においても予想を大幅に上回る買受希望単価が需要者より提示された。

様々な取り組みの実行体制の整備

地域と連携した、エゾシカ捕獲、安全パトロール、森林づくり協定HPの作成などの各種活動を実施する中で、実行体制や仕組みの整備が進んだ。

今年度の取り組みで目指すところ

- 林業経営の適否の判断材料を検討整理
- 林況調査項目の整理と効率的な調査手法の検討
- 経営管理実施権が設定出来ない森林の効率的な管理手法の検討

今後の目標

地域の森林管理の適正化と低コストで効率的な森林整備の普及

令和元年度 取組結果

地域全体の適正な森林管理と森林整備の効率化

～森林経営管理制度を踏まえた民有林支援の在り方～

胆振東部森林管理署

目 標

地域の森林管理の適正化と低コストで効率的な森林整備の普及

令和元年度取組

取組の内容

取組の成果

取組①

「経営管理権集積計画」策定の支援
(意向調査＝各市町対応)
(現況調査＝民有林支援)

各市町が計画策定を行うにあたって実施する「人工林の現況調査」等への技術的支援を行うため、胆振総合振興局林務課及び森林室との連携が不可欠であることから、当署との三者で現地において意見交換会を実施した。意見交換会ではドマツ人工林とカラマツ人工林の2箇所で「人工林の自然的条件に照らして、林業経営に適する森林かどうか」の判断について三者の目合わせを行った。



森林の取り扱いに関する三者の目合わせが完了したことから、市町が実施する「人工林の現況調査」への技術的支援を連携して行っていく準備が整った。

取組②

「経営管理実施権」の設定が困難な森林の取扱い

各市町との連絡会議の場などを通じて支援内容の説明を行うとともに、各種会議に参加しながらそのニーズの把握を行ったところ、現在、各市町では森林所有者の意向調査を進めている段階であることが分かった。

現在、各市町は意向調査を進めているところであるが、直営で人工林の現況調査に取り組む市町もあり、今後、国有林として支援が出来るか協議していく。

目標に対する達成度

意見交換を行った結果、森林施業の進め方に大きな違いがないことが確認できたことにより、林業経営の適否の考え方、林況調査項目の整理と調査方法及び経営管理実施権が設定出来ない森林の管理手法も国有林と同様に考えている事が確認できた。

次年度の取組予定

森林経営管理制度について、直営で取り組む市町と連携を密に取り、人工林の現況把握の支援から進めていく。
また、今後も市町との連絡会議や胆振総合振興局主催の各種会議等に参加することにより、情報発信やニーズの把握に努めていく。